

中ノ沢支流北谷地沢

1985年7月27日

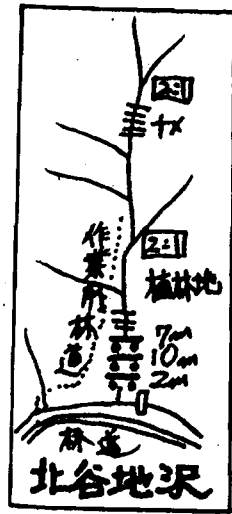
L:

ゲートより林道を歩く。20分程で北谷地沢出合に到着。中ノ沢に下って北谷地沢を見ると、出合に滝がかかっているのが見える。コケがついていてすべるので、右岸を登って上に出る。

率先がよいと意気高く歩き始めるが、あとは平凡な河原歩きとなってしまった。このあたり植林された15年ものの杉が寒風害で赤くなっている。また、右岸には作業用の林道が時々見えている。

平凡なままヤブがかかってくる。ひどくなってきたところで遡行終了とし、作業用林道を利用して戻る。中ノ沢と北谷地沢の合流点より100m程下流で林道に出た。

[タイム] ゲート(14:15)→北谷地沢出合(14:35)→遡行終了(15:20)→林道(15:50)→ゲート(16:05)



中ノ沢支流入カラ沢

1985年6月30日

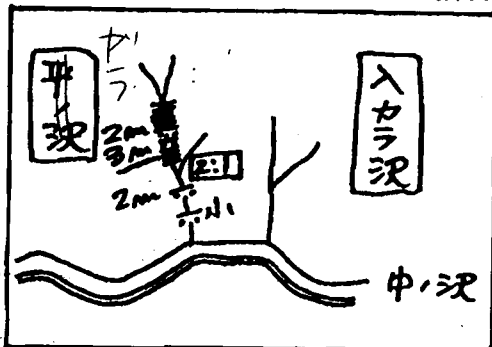
L:

午後から友人の結婚式に出席する都合で、短い沢をねらって入る。出合の感じは何も無さそう。

身仕度を整えて遡行開始。沢は名前の通り、入ってすぐにカレてしまう。15分も登ると、ヤブがかぶさり、遡行不能となってしまいます。尾根を乗り越えて平ノ沢を下降するつもりであったが、そのまま登ってきた沢を下降する。

(記)

[タイム] 入カラ沢出合(8:55)→遡行終了(9:10)



中ノ沢支流平ノ沢

1985年6月30日

L:

入カラ沢を終えていったん中ノ沢まで下ったあと、平ノ沢に入る。出合はヤブ

がかぶさり、貧弱である。遡行を開始して15分程で二俣に到着。この上部はスケールは小さいがナメとなっている。次に3m、2mと小滝が出てくるが、あとは沢が分かれ、源頭となってしまふ。ヤブがかぶさり、水もなくなった所で遡行終了とする。所要時間は30分程であった。 (記)

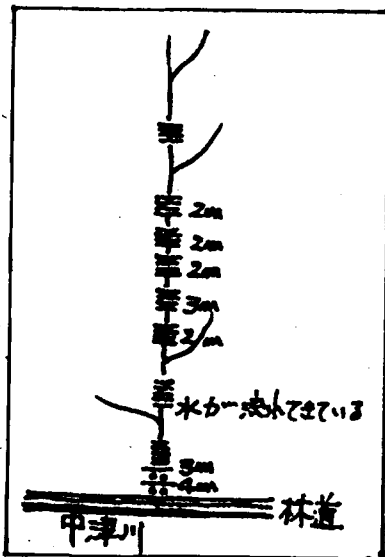
[タイム] 平ノ沢出合(9:45)→二俣(10:00)→遡行終了(10:20)

大 沢

1985年10月19日

L:

中津川林道ゲートに車を置いて、林道を歩く。毎度のことながら、ゲートの存在がうらめしく感じられて仕方がない。30分程で大沢出合。



林道からの取り付きは、いきなり4m、3mと続く2段滝である。水が一滴もないカレ沢であるが、高橋さんのためにザイルを使用して登る。上はナメとなっていた。

15分程歩くと水が出てきた。出合から全部岩盤であるのに、水はどこへ消えてしまうのだろう。不思議である。

この先もナメの連続である。藪になってきたあたりで遡行終了とし、山の神沢右俣の下降めざして右岸の藪こぎを開始する。 (記)

[タイム] 林道ゲート(14:30)→大沢出合(15:00)
→遡行終了

山の神沢左俣

1985年7月21日

L:

中津川林道にかかる橋を降りて沢に入る。3mのチョックストーンを越すと砂状の河原となり、沢は蛇行している。つづいて灰青色のナメ床となる。やがて沢幅が広がり、左岸から10m程のナメ滝をかけて左俣が合流する。

小滝を境にナメ床の色が茶褐色に変わる。広々としたナメ床をのんびり行くと、5m程の幅広い滝が現われる。水は左側をS字状に流れていて、なかなか趣のある滝だ。左岸には15m程のカレ滝がかかっている、ここだけは茂庭の沢らしから